

名古屋市立伊勢山中学校 二年

城田 咲月さん

名古屋市
栄市税事務所長賞



人と人をつなぐ税

私は小学生の頃、「KFG」という地域の子供消防団に入っていた。毎回参加できたわけではないが、消防団の方と一緒に活動をしていく中で、普段の生活では、経験することのできない体験を多くさせてもらった。

特に印象に残っている活動に、地域の公園に、消防車や消防士の方がきて、消火用のホースを使用している姿を見学させてもらったり、ホースをもたせてもらったことがある。とても驚いた。これほど重たいものをもって消火しているのか。こうしていつくるか分からない火災などへ備え、地域と地域の人を守る活動をしていただいているのか。感謝の気持ちの両方を強く感じた。

普段不自由なく生活していると、もし火災がおこったら、地震がおこったらなんてことを考えることは少ない。考えるとしたら、避難訓練の時、どこかで災害がおこったということニュースで見たときぐらいだ。それでも、どこか日常とはかけ離れた遠い遠いところの話のように思ってしまったている私がいる。しかし、ニュースで話している被災者の方がよくインタビューでこんなことを言われている。

「まさか、こんな近所で」

「まさか、この地域で」

そう、「もしもの時」は突然くるのである。その時のための備えが、税金でまかなわれており、その時のために活動してくださっている人がいるのだ。

普段、中学生である私が税金を意識するのは、買い物の際にかかる消費税ぐらいだ。もらったレシートを見ると、たくさん税金がかかっているのだと驚いてしまう。だが、そのお金によって、地域の安全が支えられ、私達の日常に「見えないバリア」のような安心感を与えてくれる。

人は一人では生きていけないし、家族やご近所の方と支え合っても災害に立ち向かうことは難しいだろう。でも考えてみれば不思議だ。私が知らない誰かが私を守るために税金を払ってくれている。私も知らない誰かを守るために消費税を払っている。顔も名前も知らない人同士が税金を通じてつながっているのだ。消防士の方が毎日私のことを考えて仕事をしているわけではないだろう。でも結果的に私は守られている。私が払う消費税も「特定の誰か」のためではないけれど「どこかにいる知らない誰か」の安全につながっている。この見えないつながりに気づいた時、私はとても心強く感じた。

大きくなって働くようになったら、きっと私も税金を今よりも多く払うようになるだろう。その時、おそらく「こんなにも払わないといけないのか」と思うだろう。でも税金を払うことで私は知らない誰かとつながることになる。私が払う税金で誰かを支え、私も誰かに支えられる。そう考えると税金は人と人をつなぐ大切なシステムだと私は思う。